

## 「電子書籍の台頭－電子書籍元年と変わる書籍市場－」

経済学科 澤田 藤洋仁

近年、「電子書籍」という単語が大衆に違和感なく使用されるようになりました。その市場規模は年々拡大し、空前の「電子書籍ブーム」を引き起こしています。

その一方で、既存の書籍市場の代表ともいえる出版業界の規模は 1990 年代後半から縮小傾向にあり、書籍・雑誌の販売額は減少し続け、「出版不況」と言われるほどの不況状況に陥っています。

電子書籍の台頭はこの出版不況を後押しする一因であり、今後の書籍市場に大きな問題を呈することは間違いないといえます。

今回の論文では、電子書籍元年が叫ばれ書籍市場が大きな転機を迎える今、電子書籍の可能性および出版業界の将来と今後の書籍市場のありかたについての研究・考察を行いました。

学生懸賞論文に応募させて頂いたのは今回が三度目となります。一度目は2回生の際、同ゼミの上級生、同級生とともに近鉄河内天美駅への準急停車の可能性について考察し、優秀賞を頂きました。二度目は3回生の際、私が代表となり、同ゼミの同級生とともに郵政民営化についての研究を行い、奨励賞を頂きました。

そして、今年は一人で応募させて頂いた次第です。最高学年ということで最後の応募になると考え、今まで培ってきたことを活かし論文作成に励みました。

今回、奨励賞を頂くことができましたが、これは私だけの力ではありません。貴重な時間を割いてご助力くださった先生、就職活動や卒業論文の合間に的確なアドバイスをくれた友人の力があつたからこそ、受賞に繋げることができたと思います。

今後は、周りの方々に支えられるだけでなく、自らも誰かの力になれるような人間でありたいと考えております。

私が学生懸賞論文に応募できるのは今年が最後となりますが、後輩の皆さんには今後も懸賞論文に積極的に参加することで、お互い切磋琢磨し成長して欲しいです。心より応援しております。